

会長の挨拶



澤村 和夫

清水地区の皆さま今日は。

この度、前任の横山定雄会長が、一身上の都合により退任され、残任期間を副会長の私、澤村和夫が務めることになりました。

清水地区においても、地域の人々が抱える様々な福祉問題を共に考え、地域の皆さまが安心して暮らしていける地区を目指して活動して参りたいと思います。

清水地区社協では、「いきがい交流センターしみず」を拠点に「友遊しみず」への支援、「ふれあい教室」の開催等々の福祉活動を実践しております。少子高齢化の進展と社会福祉を取り巻く環境も大きく変化しており、特に高齢化など、今後の福祉活動が大事であると思います。

清水地区社協も、松山市社協のご指導のもと、その他関係機関「清水地区民生委員児童委員協議会」「町内会連合会」「地域包括支援センター味酒・清水」など、各団体との連携をとりつつ、清水地区を誰もが安心して暮らせる、福祉社会を目指しますので皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

令和4年度清水地区社会福祉協議会活動資金は、2,600,000円です。

令和 4 年度第 1 回理事会・評議員会により、今年度の予算が決まりました。

収入の主なもの

地区社協賛助金 **560,000円**
(1世帯100円×5,600)

社協活動助成金 **540,000円**
(赤い羽根共同募金配分金)

福祉学習事業助成金 80,000円
共同募金推進費 70,000円

支出の主なもの

福祉活動費 **960,000円**
(内訳は下記)

福祉活動事業費 80,000円
共同募金推進費 70,000円

福祉活動費内訳	敬老会への助成(14分館)	300,000円	協力会員・清水地区民児協活動助成	222,000円
	高齢クラブ助成(5団体)	100,000円	トーンチャイムボランティア活動助成	18,000円
	独居高齢者助成(310名)	160,000円	女性団体助成	14,000円
	身障者援護活動助成	20,000円	自主防災連合会助成	14,000円
	児童クラブ(2団体)子供会(5団体)	82,000円	地域活性化事業助成	30,000円

福祉活動費は、各地域・団体への活動助成金として使用されています。

清水地区社会福祉協議会の活動資金は、各戸からの賛助金と、赤い羽根共同募金からの配分金です。今年度も皆様からのご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集後記

事務局長 渡部 和紀

今回代役で編集を務めさせていただきました。勝山中学校をはじめ姫山小学校・清水小学校の先生方にも大変お世話になりました。また、地区の方々にも心良く記事をお寄せいただき感謝にたえません。最後に私の不慣れな編集にご協力くださった、太陽印刷さんにお礼申し上げます。多くの方々のお陰様でものが形になることを改めて実感いたしました。



第67号



しみずの福祉だより

清水の現状 (令和 4 年 9 月 1 日現在)	
人	口 22,486人
65 歳 以 上	5,865人
高 齢 化 率	26.1%
世 帯 数	13,310世帯
一 世 帯 平 均	1.7人

(住民基本台帳による)

清水地区社会福祉協議会
編集・発行 会長 澤村 和夫

清水地区の校長先生ご紹介

「やさしい町清水」の学校として

清水小学校



校長 越智 文明

平成 14 年 4 月 15 日、清水小学校内に、四国で初めて余裕教室を活用した福祉施設「いきがい交流センターしみず」が設立されました。以来 20 年間、本校では、総合的な学習の時間による交流活動(「やさしい町清水」他)はもとより、日常生活の一コマとして、全学年児童が高齢者をはじめ地域みなさんと交流する活動を、年間を通じて行っています。高齢者による地域の民話や伝統文化等の伝承、障がい者等に学ぶ福祉や体験に基づく俳句づくり、地域みなさんとの卒業リボンづくりのほか、たくさんの方が授業や行事に参加してくださったり一緒に給食を食べたりもします。

ここ 2 年間はコロナ禍で制限はしているものの、例年なら年間 50 回を数える交流を通して、児童は高齢者等から優しさや知恵を、高齢者等は児童から元気や新たな知識をもらうなど、生きるエネルギーの交換が行われています。本校では、こうして世代を超えてつながる活動を大切に、「やさしい町清水」の学校として、SDGs11(住み続けられるまちづくり)にも貢献したいと思っています。



校長 小笠原陽二

姫山小学校

ふるさと姫山

私事で恐縮ですが、7 年ぶりに姫山小に戻ってまいりました。登下校を中心に、子どもたちを優しく見守ってくださる地域の方々に再びお会いすることができ、本当にうれしく思っています。

さて、平成 27 年度に当時の校長先生のご指導のもと、姫山小学校では地域教育に力を入れ、「ふるさと姫山」という学習ノートを作成しました。子どもたちが地域の一員として、地域が大好きになり、地域で活躍できる人になってもらいたい、という思いで作りました。

私自身もこの夏、再び地域の取材をし、ホームページに「ふるさと姫山 名所を訪ねて」と題し、紹介させていただきました。今後、オリエンテeringマップにまとめる計画をしています。「自分の住んでいる地域に対して、誇りや愛着をもつ子どもを育てる」ことを大切に、これからも地域の皆様に愛される学校を目指したいと考えます。地域の名所等の資料や情報をお持ちの方、また地域に残る民話や伝統芸能について教えていただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ学校にご連絡いただき、地域教育へのご協力をお願いできれば幸いです。

好きです!勝中

勝山中学校



校長 渡部ゆかり

昨年度、勝山中学校に 14 年ぶりに戻って参りました。本校の校風と気質が大好きでしたので、大変嬉しく思いました。

勝山中学校は、75 年以上の歴史を持つ伝統校です。私たちは日頃より、地域の皆様やたくさんの卒業生から良く評価されることが多く、生徒や教職員は、自分の学校や自分たちの活動に誇りを持っています。いつも温かい励ましとご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症により、人との関わりが随分と制限され、十分な教育活動ができませんでした。しかし、中学 3 年間は、発達段階においても「人を創る」大事な時期です。どんな状況でも、様々な体験や幅広い学びをあきらめず、できる工夫をしてきました。今年度は、生徒主体となって活動する「自分たちで創る、自分たちの学校」を目指しています。

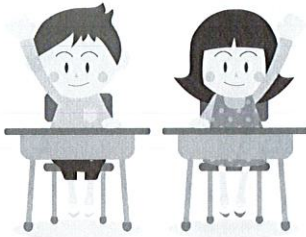
そして、今後は、自分が育ってきた地域にも目を向け、高齢者など地域の方々のために何ができるのか、地域行事や災害時には地域の一員として、どのように関わればよいのか、地域の方々と協働する意識も育てていきたいと思っています。

コロナが落ち着きましたら、ぜひ学校へ足をお運びください。勝中生の活躍を激励していただければありがたいです。これからも勝山中学校をどうぞよろしくお願い致します。

清水小学校 3年生の

地域学習

清水地区の
名所・旧跡
を訪ねて
＜児童の感想＞



一草庵と種田山頭火



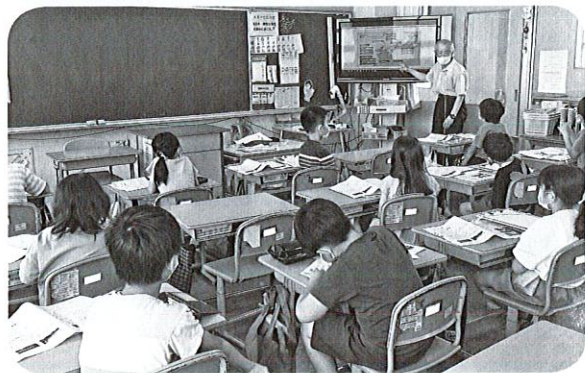
講師の先生は、『俳句は五・七・五の言葉で作られ、季節を表す季語を一つだけ用いる』という決まりごとにした

がって作る詩のようなものです」と教えてくださいました。

種田山頭火さんの本名は種田正一と言い、たくさんの俳句を残しました。人生の最後を過ごす場所となった一草庵には、今でもたくさん見学者が訪れるそうです。温泉とお酒が大好きだったということも初めて知りました。山頭火さんはかつて早稲田大学に通っていました。外国語の文章の翻訳も発表していたということを聞き「山頭火さんはインテリで賢いんだなあ。」と思いました。

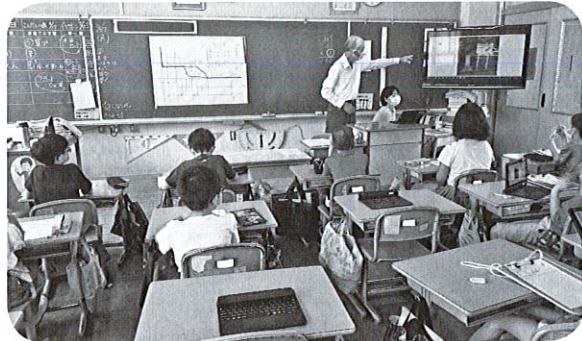
ロシア兵墓地

ロシア兵墓地のお墓は、兵士たちが生まれ育ったロシアの方に向かって墓石が建てられています。ふるさとではない場所で亡くなったロシア兵の方々を思い、今でも多くの人が手入れや清掃を行っているそうです。松山ではほりよの人たちを大切に、交流もしていたという話を聞いてうれしくなりました。ロシア兵たちが初めて覚えた日本語は「ありがとう」だったそうです。これからもちがう国の人たちと仲良くしていきたいと思いました。

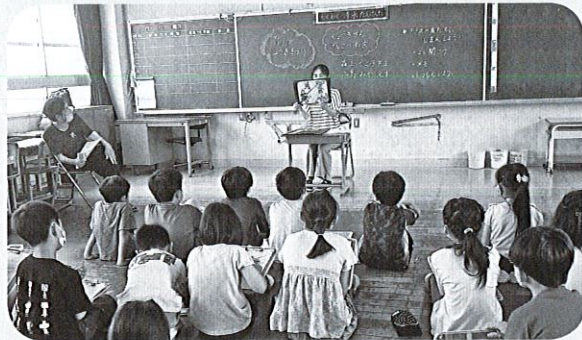


還熊八幡神社とへんろ道

松山には八幡神社が8番あって、還熊八幡神社は7番目です。一度焼けたけど、また作ったので、大事にされていると思いました。へんろ道には、道しるべの石があり、300年も前のものでびっくりしました。今は道しるべを国が作っているけど、昔は個人で作っていたそうです。木屋町通りにある道しるべは2mあり、松山市で一番大きいそうです。へんろ道には、道しるべがたくさんあって、歩く人にやさしいんだと思いました。探してみたいです。



しょうきさん・げんこつ和尚



げんこつ和尚の話にはとても驚かされました。本当の名前は「物外おしょう」というそうです。とてもいたずら好きで、相撲では負け知らず。小さい時から力が強かったそうです。とても硬い柱に、めり込んだげんこつの跡が残っていたり、自分の友達を木のてっぺんまで投げ飛ばしたりしたそうで「すごい力だ!」と思いました。とのさまとのつなひきの話では、勝負に勝って村を守ったということも分かり、良いところもあるなと思いました。

100歳
バンザイ!!

おめでとうございます

前田喜三郎 様 (木屋町)

松原 勝子 様 (姫原)

八木 寅芳 様 (緑町)

正岡スミエ 様 (緑町)



地域包括支援センターとは

◇高齢者の方が、住み慣れた環境の中で暮らし続けるための相談窓口です。
◇健康、医療、介護など、なんでもご相談ください。
◇相談内容に関しては、秘密を守ります。
◇相談は無料です。

電話 (089) 911-1135
休日 日、祝祭日、12月30日～1月3日
名称 松山市地域包括支援センター味酒・清水
住所 松山市清水町3丁目15
開館時間 月～土 (8時30分～17時30分)



九十年の歩み



昭和十六年
(一九四一年)
十二月八日大
東亜戦争(第二
次世界大戦)勃
発、小学六年
生でした。昭

和二十年八月終戦。この四年間中学生として勤労奉仕や学徒動員で働く。戦後焼野原となった松山市では教室もなく他地区の学校や工場の会議室等を借りての勉強でした。昭和六十一年N.T.T.を退職。五十七才でした。特に印象的なことは昭和三十三年の東京オリムピック時に全国のテレビ回線のカラー化工事にかかわった実績です。松山市が推進する城北地区区画整備が昭和五十八年に完了し山越六丁目町内の誕生です。私は第三代目の町内会長となり三務期を務めました。町内会の会員数は二百余人で他地区からの転入者が多く若い方々の集団でした。町内会の行事も旅行や盆踊り各種体育関係公園の清掃等中広く積極的に協同実施しました。さいわい公園には夜間照明があり喜んで利用しました。次に山越八千代会(老人会)の誕生です。約二年間の準備期間を経て八区分館の二十町内会長の協力を得て平成九年一月十五日会員数二五名で発足しました。行事内容は①奉仕活動②友愛活動③

健康活動を基本とし具体的には史跡めぐり(松山市が推奨するコース)、旅行、誕生会、月見会、桜まつり、カラオケ、公園清掃、交通安全活動等です。以上の行事を忠実に積極的に実施したことにより市老連や県老連から表彰され八千代会の活躍が認められた証しであり会員の生きがい喜びに通じたことと思われました。

次にゲートボールの発足と活躍について、平成元年に発足し高崎公園で熱心に練習を重ね会員も二十数人と増加し他地区や各種競技大会に積極的に参加し技術の向上、知識の習得に取り組み審判員資格も取得しました。特記事項として全国大会に男性女性夫々に単独で参加したことです。これは高崎会チームとしての実績として誇りであり栄誉であります。そのほか私は町づくりや公民館その他の機関にかかわって今日を迎えておられますが、ふりかえってみると、知識としては仲間や友人先輩や後輩の方々の意見をよく聞き、よく話し合うことこそが必要であり基本であると思っています。ここに過去にふれた方々のご親切ご協力とご支援下さいましたことに心から感謝とお礼を申し上げます。特に地域におきましては縦社会よりも横社会こそ必要かと考えます。清水地区の高齢化率二六％、今後の対応対策が重要ですが、高齢者同士が連絡協同し、励まし合い喜び合う日常が望まれています。最後に今日コロナ禍の関連で各組織が計画する行事についても足踏状態ですが、これが解放された場合には関係者の方々のご健闘を心から期待しお願い申し上げます。



「協力会員研修会」を
二年ぶり開催
援護部長 門屋 淳
昨年はコロナの感染拡大防止のため中止された「協力会員研修会」が、今年は感染対策を徹底した上で、七月八日の金曜日に協力会員十七人が参加して二年ぶりに開催されました。今回訪問したのは、陸上自衛隊松山駐屯地。午前十時、正面玄関の衛兵詰所に到着した参加者一行を、広報担当の隊員がお出迎え。当日は陸曹候補生の教育訓練がグラウンドで行われており、その厳しい訓練を横目で見ながら、陸上自衛隊の主力武器、戦車や榴弾砲を見学。戦車の中に入らせてもらったり、装甲指揮車に乗せてもらったりグラウンドを一周したり普段経験できない体験をさせてもらいました。また駐屯地内の資料館も見学しましたが、愛媛出身の特攻隊員の遺筆や当時の状況の説明文などを見るにつけ、戦争の悲惨さと平和の尊さを再認識させられました。陸上自衛隊は災害支援、復興支援にも大活躍していますが、彼らが命を落とすことがないよう、また彼らの命を奪う事態に陥らないよう研修会でした。



赤い羽根共同募金のお願い

ご援助頂いた募金は、地域の福祉活動に使われます。

令和4年度・清水地区赤い羽根共同募金目標額

2,787,400円



令和4年度

清水地区町内会連合会様より
賛助金として頂きました。

1世帯当たり100円

@100×5,600=560,000円